

令和2年度

久米島町教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書

令和3年9月

久米島町教育委員会

ま え が き

久米島町教育委員会では、子ども達が「島に誇り」・「心に夢」を持ち、「創造性・国際性に富む人材の育成と生涯学習の振興」を目指すことができるよう教育振興に努めております。

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、久米島町教育委員会の活動状況及び教育施策の実施状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表するものです。

なお、点検・評価に当たっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、助言及び評価を求めることとしました。

外部評価委員名簿

* 令和3年8月18日現在

役 職	氏 名
現久米島PTA連合会	吉原 昌司
現久米島西中学校評議員	國吉 佳代
現久米島西中学校評議員	平良 弘光

I はじめに

1 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。このため、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要性があります。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正において、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、ホームページ等で公表し、町民への説明・責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進してまいります。

2 対象事業と点検・評価の方法

- (1) 久米島町教育委員会が策定した「令和2年度久米島町教育主要施策」において、主要な事業の取り組み並びに達成状況について点検・評価を行いました。
- (2) 評価方法
教育施策の各項目について、達成度により内部（自己）評価しました。
- ・達成度（ A ～ D ）
 - A ……十分達成できた
 - B ……概ね達成できた
 - C ……やや不十分である
 - D ……不十分である
 - ……新型コロナウイルス感染症の影響による未実施のため評価不能
- (3) 外部評価
点検・評価にあたり、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、ご意見・ご助言をいただきました。
- (4) 評価基準日
令和3年3月31日
- (5) 評価実施日
令和3年8月18日

令和2年度 久米島町教育主要施策

久米島町教育委員会

教育主要施策の策定にあたっては、国や県の教育改革の動向、県の重点施策の基本方針等を踏まえ、「令和2年度久米島町教育主要施策」を定めました。

教育の目標

- ◆ 自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ、幼児児童生徒を育成します。
- ◆ 平和で安らぎと活力のある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際化・情報化社会で活躍する心身ともに健全な町民を育成します。
- ◆ 家庭・学校・地域社会の相互連携のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会を推進します。

目標達成のための主要施策

1. 生涯学習の推進

生涯学習の推進にあたっては、町民一人一人が学習の各時期において生きがいのある人生を過ごすことができるよう、学習形態と施設の整備拡充や利用の促進を図り、諸施策を展開します。最近の調査によると国民の3分の2以上が「生涯学習」に関心を示しており、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習活動を楽しもう・生きがいを見いだそうという学習意欲が高まりつつあるので、的確にニーズを把握し環境を整備するとともに拡充を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
1	三線教室	沖縄が世界に誇る三線を基礎から楽しく習得する事を目的に、初心者向けの教室を実施している。	○コロナの影響で休講もありながらも全18回教室を開催することができ、沖縄の伝統芸能に関わる機会提供できた。 ●22名の受講生から修了者が6名と少なかった。受講生が修了できるようにサポート体制を整える必要がある。	B	B
2	母の日 プレゼント教室	久米島紬体験を行い、母へ感謝の気持ちを込めてプレゼントをつくる。	○新型コロナ感染拡大防止のため中止となった。 ●感染症等の状況も含め、開催方法について検討する。	—	—
3	父の日 プレゼント教室	久米島紬体験を行い、父へ感謝の気持ちを込めてプレゼントをつくる。	○21名参加、久米島に自生する植物からできた染料でバンダナやストールを色づけし、紬がどのように染められ作られているのか学ぶことができた。 ●参加希望者が設定定員を超えての問い合わせがあるので、定員設定の検討が必要。	A	A
4	県立移動図書館	図書館のない地域を対象に、県立図書館が図書の展示・貸出を行う移動図書館を開催している。	○6月に開催、212人の町民が利用（貸出冊数1,688冊）し、貸出冊数が過去最高を記録した。 ○コロナ禍ではあったものの、感染対策を徹底し開催することができた。町民へ読書機会の提供を行うことができた。 ●新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、読み聞かせ等のイベントは開催しなかった。	A	A
5	電子図書館	内閣府と連携し、図書館や本屋がないなど情報格差が大きく、読書機会が少ない沖縄県の離島地域の課題解決につなげるため、電子図書館を使った実証実験（3ヵ年）を実施する。	○ほんのもり（図書館）開館に伴い、利用登録者数が1,133人増の1,492人となった。交付金等を活用して電子書籍を増やしたことで、貸出冊数が189冊増の647冊となった。 ○実証実験の成果と町民ニーズを参考に、令和3年度より町事業として運営する。 ●電子図書館運営費用が限られているため、町独自資料（行政・地域資料）を積極的に活用する必要がある。	A	A

2. 幼稚園教育・学校教育の充実

学校教育においては、幼児児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力の育成及び豊かな心、健やかな体の育成など「生きる力」をはぐくむ学習活動を教育活動全体で充実させることが重要であり、自らの個性を生かし社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を培う必要があります。

このため、学校においては、教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実させるとともに、目的意識を高める指導方法等の改善・充実を図ることで幼児児童生徒に自己肯定感と向上心をはぐくむなど、適切な教育課程の編成・実施に努めます。

また町教育委員会においては各学校が創意工夫した特色ある教育課程を編成・実施できるよう各学校の実情に応じた適切な支援を実施します。

I. 幼稚園

・幼児教育の充実

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期であり、幼稚園教育は、義務教育及びその後の教育の基礎を培う重要なものです。

幼稚園教育の基本は、環境を通して行うことを踏まえ、幼児一人一人の発達の特性に応じた教育となるよう内容を改善し充実を図っていきます。

また、幼児期からの心の教育の充実が求められており、生活の中で、豊かな感性、人と関わる力の基礎、道徳性の芽生えなどを培うよう援助してきます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
6	幼児教育	保護者の子育て支援として、幼稚園修了後に希望する園児を対象とし、仲里・清水幼稚園で預かり保育を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ○両園ともに預かり指導員を二人配置し、希望するすべての園児を受け入れることができた。 ○免許を取得している指導員の確保ができた。 ○幼稚園教諭の協力を得て、預かり指導員の休暇時などフォロー体制ができています。 ●預かり指導員の人材確保に苦慮している。 	A	A
7		特別な支援を必要とする幼児に対しヘルパーを配置し、必要な教育的支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ○特別な支援を必要とする幼児にヘルパーを配置することができた。 ○ヘルパー日誌を通して、幼稚園教諭や教育委員会等で情報を共有することができた。 ●ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うため、園全体で連携を図り、協力体制の下で支援を行う。また、研修機会の確保等により支援の質の向上にむけての取り組みを検討する。 	A	A

II. 小・中学校

・学習指導の工夫・改善・充実

学校においては、児童生徒一人一人の実態等を十分に把握し、個に応じた指導体制や指導方法、評価方法の工夫・改善を図り、「沖縄県学力向上推進5カ年プラン・プロジェクトⅡ」や『「問い」が生まれる授業サポートガイド』を活用して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や指導方法の確立に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
8	学力調査	<p>1. 標準学力検査（NRT） *対象：小学3～6年生、 中学全学年</p> <p>2. 全国学力・学習状況調査 *対象：小学6年生・ 中学3年生</p> <p>3. 沖縄県学力到達度調査 *対象：小学3～6年、 中学1・2年</p>	<p>小学校</p> <p>○標準学力検査（NRT）において教科総合偏差値が、前年度より上回っている学年は、小学3年・小学5年・小学6年で（+0.6～+3.1p）。前年度より下回っている学年は、小学4年で（-0.2～-2.9p）、前年度と比較すると向上が見られる。</p> <p>○令和2年度全国学力学習状況調査に関しては、新型コロナ感染拡大防止のため、全国一斉の調査は実施していない。</p> <p>○沖縄県学力到達度調査においては、小学5年・小学6年の国語・算数のみの実施となった。すべての学年・教科において、県平均を上回っている（+4.2～+8.5p）。</p> <p>☆学校間差、学年間差がまだ見られるため、各学校や学年の実態に応じた対応が必要である。調査結果から課題等を分析し、学習指導計画等に明記し、授業改善に生かすよう指導・支援する。</p> <p>☆町独自で実施している標準学力検査（NRT）については、R2年度で終了とする。</p>	B	B
9		<p>中学校</p> <p>○標準学力検査において教科総合偏差値が前年度より、下回っている。（経年比較）（-0.2～-1.7）令和元年度と比較すると若干ではあるが向上が見られる。</p>	B	B	

			<p>○令和2年度全国学力学習状況調査に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国一斉の調査は実施していない。</p> <p>●沖縄県学力到達度調査においては、中学1年・中学2年の国語・数学・理科のみの実施となった。県平均を上回った教科は中学1年国語(+1.6) 中学2年国語(+2.9)。県平均を下回った教科は中学1年数学(-0.6) 中学2年数学(-3.8) 中学1年英語(-1.1) 中学2年英語(-4.6)で、学校間・学年間・教科間に差が見られる。</p> <p>☆学校間差、学年間、教科間の差がまだ見られるため、各学校や学年の実態に応じた対応が必要である。調査結果から課題等を分析し、学習指導計画等に明記し、教科会(中高)等を利用しながら授業改善・補習指導の方法なども指導・支援する。</p> <p>☆町独自で実施している標準学力検査(NRT)については、R2年度で終了とする。</p>		
10	学習支援員の配置	児童生徒一人一人に基礎学力を身につけさせることを目的に、小中学校に学習支援員を配置する。	○小学校に3名、中学校に4名の学習支援員を配置できたことで、学習未定着の児童生徒に対し、きめ細やかな学習支援を行うことができ、学習に対する意欲を高めることができた。	B	A
11	検定補助	<p>1. 漢字検定 児童・生徒の基礎学力向上推進の一環として、年に3回実施される漢字検定のうち、1回分の受験料を補助する。 *対象：小学2年生以上及び特別支援学級在籍の中学生</p>	<p>漢字検定 受験者総数 373名。合格率 73% (前年度比+2%)</p> <p>※2年～6年在籍数 392名</p> <p>5級 合格者数 41名 (合格率 71%)</p> <p>4級 合格者数 2名 (合格率 25%)</p> <p>3級 合格者数 2名 (合格率 67%)</p> <p>○当該学年以上の級に受験する児童が増えた。</p> <p>●学習の動機付けと、漢字検定合格に向けた取り組みを推進する。</p>	A	A
12		<p>2. 英語検定 学力向上推進の一環として検定受験料を補助し、英語への興味関心を高め、一人一人が</p>	<p>英語検定 受験者総数 156名。合格率 44% (前年度比-9%)</p> <p>3級 合格者数 15名 (合格率 44%)</p> <p>準2級 合格者数 4名 (合格率 16%)</p> <p>2級 合格者なし</p>	A	A

		主体的に学習に取り組み機運を醸成する。 *対象：中学校生全員対象 *年3回実施される英語検定で、一人同級2回まで検定料を補助（3級以上は3回目でも補助）。	準1級 合格者数1名（合格率100%） ○ハイレベルの級の受験生徒が増えた。（3級以上受検者数61名） ☆中学卒業までに、3級以上の合格者数沖縄県平均を目標に取り組んでいく。		
13	地域教育資源活用支援	地域の人材や地域環境等を活用した教育活動への支援	○地域教育人材活用支援事業により、各小中学校1校あたり15回（全校合計120回）の講師謝礼金がある。今年度に関しては新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部から学校へ来校しにくい状況であったが、全体で（96）回が活用されている。 ☆各学校に活用・手続き方法等を定期的に周知し活用の促進を図る。	A	A
14	久米島町学力向上教職員研修会	1. 教職員一人一人が研究授業及び授業研究会を通して相互的な研修を行い、それぞれの教師としての資質、授業力の向上に努める機会とする。 2. 中学校区の幼小中連携研修会を開催することで「確かな学力」の確立へ向けての実践の共有化を図る。	○各学校においては、新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底しながら、工夫し、研究授業等を実施した。 ○第3回町学力向上推進委員会にて各学校の学力向上取組についての報告会を実施し、共有化を図ることができた。 ●中学校区学力向上推進ブロック研修会に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催できなかった。 ☆次年度以降においても授業改善を基軸とした学力向上研修会を実施し、島内教職員が相互に実践できる研修会の充実を図っていく。	B	B

・道徳教育の充実

道徳教育は、児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなどの豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛する態度を培います。

このため、学校においては、児童生徒の発達の段階に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を培う道徳教育を、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導を推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
15	道徳教育	1. 道徳の時間の指導の充実 *指導案を作成しての研究授業の実施 2. 全教育活動を通じて、道徳性や人権意識を身に付けさせる。	○各学校の全学級において年間1回以上の公開授業をするように周知し、実施した。 ☆町内各学校で行っている道徳の授業等を町内の他校へと紹介する。	B	B

・健やかな心と体を育む教育の充実

体育・スポーツ活動に関する指導については、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、豊かなスポーツライフの基礎を培う観点に立ち、学習指導の工夫・改善を図る。併せて、運動部活動の活性化や適正化を促進し、発達段階に応じた基礎的な体力の向上に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
16	体力向上・健康保持増進	全国体力・運動能力運動習慣等調査の実施	○全国体力・運動能力等調査は新型コロナ感染拡大防止のため、調査が中止となった。 ・<調査結果(過去7年間)課題(全国平均以下)種目> 小学校 上体起こし 長座体前屈 反復横跳び 中学校	—	—

			<p>上体起こし 長座体前屈 シャトルラン</p> <p>☆日常的に体力向上や運動能力の向上のため、一校一運動の推進を行い、県内の体育専科を活用した体育の授業づくりへの指導・支援を行う。また、町内学校で体力向上に積極的に取り組んでいる学校の実践事例を発信する。</p>		
17		<p>幼児児童生徒健康診断</p> <p>*健康診断の結果から、各学校の健康課題を把握し、健康管理に努める。</p>	<p>○コロナウイルス感染状況等により、度重なる日程変更を余儀なくされたが、年度内に法定健診を全て実施することができた。</p> <p>○歯科検診結果において、むし歯が1本もない児童生徒が、小学校、中学校ともに県平均を上回っている。中学校においては全国平均を上回っている。</p> <p>○小学校の身長が男女ともに全国平均を上回っている。女子においては殆どの学年が全国平均を上回っている。</p> <p>○小学生の視力 1.0 未満が県・全国との比較において、久米島は男女ともに値が低く視力は比較的に良い。</p> <p>●中学校女子の視力が低い傾向にある。</p> <p>●中学校が前年に比べて、肥満傾向の割合が若干増加。</p>	A	B

・生徒指導の充実

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度の育成と、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるような生徒指導の充実を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
18	スクールカウンセラー等の配置	町や県から配置されたスクールカウンセラーを、中学校を中心として派遣し、不登校や問題等がある児童生徒への相談支援を行っている。	○県スクールカウンセラーの配置により、児童生徒や教職員、保護者等のカウンセリングを行った。また、学校へとフィードバックしてもらうことで、児童生徒理解と支援の方法に生かすことができる。	B	B

			<p>○町スクールカウンセラーを、1日4時間を目安として月12日、各小中学校の要請に応じ配置することができた。</p> <p>○小中アシスト相談員が配置され、登校しぶりの児童生徒の支援の充実を図ることができた。</p> <p>●県スクールカウンセラーの配置回数が離島であるために少ない状況にあり、児童生徒や教職員や保護者の相談に十分対応し切れていない状況にある。</p> <p>☆県スクールカウンセラーの配置について、令和3年度は、町内すべての学校に年11回の配置が決定し、継続的な相談等の支援が可能となる。県スクールカウンセラーと連携を図りながら効果的な活用できるように支援していく。</p>		
19	児童・生徒の問題行動の把握、関係機関と連携	児童生徒の問題行動を把握した場合に関係する機関（福祉課、警察、県の児童相談所等）と連携し、適切な対応を取る。	<p>○アンケート等を実施して問題行動を把握し、必要に応じて関係機関との情報の共有や初期対応の体制づくりに役立てることができた。</p> <p>○児童生徒や保護者等の対応のため、必要に応じて関係機関と状況共有や対応方法などを連携することができた。</p> <p>●問題行動等の児童生徒への対応していくために専門家や専門機関との連携が必要だが町内において迅速に対応できていない状況がある。</p> <p>☆児童生徒の健やかな成長のために、効果的・効率的な組織や仕組みづくりをする。</p>	B	B

・キャリア教育の充実

学校教育においては、児童生徒に夢や希望を育み、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人・職業人の育成を図る必要があります。このため、教育活動全体を通して児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、望ましい勤労観・職業観の育成に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
20	ジョブシャドウイング学習・職場体験学習	各小中学校の児童・生徒が職場を訪問し、仕事の観察や体験をする。	○小学生でのジョブシャドウイング学習と中学生の職場体験学習が、町内の皆さんのおかげで実施することができた。 ☆ジョブシャドウイング学習や職場体験を体験するだけに終わらせることなく、働くことの意義を児童生徒に思考させるため、事前事後の取り組みを充実させていくことを指導・支援していく。	A	A

・特別活動の充実

社会の一員として成長していくために、児童生徒が充実した学校生活を送り、学級や学校での集団活動を通してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むとともに、個性の伸長に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
21	島外派遣費補助	生徒の多様な能力と心身の発達や育成を図り、島外の生徒との競争や交流の機会を増やすことで広い視野を持たせること等を目的に、中学校の課外学習である部活動において島外で開催される各種大会等へ参加するための渡航費用等を補助する。	○年間42の各種大会等に409名（延べ人数）に対し、大会派遣支援の補助金を交付した。 ○社会情勢が混乱の中、年間の一人当たりの派遣回数としては「複数回（2回以上）」の割合が70%を占めており、各種大会等へ参加する機会を確保できた。 ●新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、開催中止となった大会が相次いだ。 ●財源である沖縄振興特別推進市町村交付金事業終了後の事業継続のための財源確保の検討が必要。	A	A

・特別支援教育の充実

特別支援教育は障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行うものです。このため、学校においては、特別支援教育に関する校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を構築し、児童生徒の状態、特性や学級の実態に即した教育課程を編成するなど特別支援学級の教育課程の充実を図る組織的な取り組みを推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
22	教育支援委員会の設置	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒のより良い就学支援を行うための調査・審議を行う	○医師や臨床心理士、特別支援教育に関する経験や見識を有する専門家による審議により、本人、保護者の意見を尊重し就学先を決定することができた。 ●特別な支援を要する幼児・児童・生徒は年々増加している。特別な支援が必要な幼児・児童・生徒が特別支援教育の対象から漏れることがないように、保育所から幼稚園、幼稚園から小学校、小学校から中学校への連携がしっかり図れるよう今後も引き続き取り組んでいく必要がある。	B	B
23	特別支援教育支援員の配置	特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の教育活動等を支援するために、要請に応じて小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置している。	○小学校9名、中学校7名の支援員を配置できたことで、学習面や生活面において特別な教育的支援を必要とする児童生徒のニーズに応じた支援を行うことができた。 ●求められる支援内容は異なるため、支援員の連絡協議会を定期的実施し、現場の課題解決及び資質向上につながるような取り組みができた。今後も継続的に実施していくとともに研修内容についても随時見直しを行っていく。 ●支援員となる人材確保に苦慮している	A	A

・食育の推進

学校教育活動全体を通じた食育の推進に努め、家庭や地域関係機関と連携し、児童生徒に様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得させ、健全な食生活を実践することができる能力を育成していく。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
24	給食センター運営 (学校給食の充実)	児童・生徒の健やかな成長を育むため、安全、安心な給食を提供している。	<p>○新型コロナウイルス感染症対策のため、「臨時休校」により学校給食停止。また、時差登校に伴い「簡易献立学校給食」の提供実施、6月より、通常給食提供開始。夏休み短縮に伴い7月末まで学校給食提供。前倒しで2学期学校給食開始。</p> <p>○小学生 461名・中学生 216名・教職員 141名に、年間を通して安定的に学校給食を提供できた。</p> <p>○学校再開後の6月以降、各小中学校からの要望により、学級活動や家庭科、給食時間を利用し「食に関する指導」の授業を実施した(例年の2/3程度)。例年行っている給食試食会及び災害時想定給食は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全面中止とした。</p> <p>○地元産野菜、海産物、島内製造品、紅イモを使った地元産デザートなど地場産物を活用した給食の提供ができた。</p> <p>●老朽化している施設の移転計画の実施策定(PPP/PFI事業化)。 ☆公共施設等総合管理計画において、学校給食センターは移転更新となり、「具志川庁舎周辺土地利用計画検討委員会」で配置計画を決定し答申に沿い引き続き移転建替計画を進める。</p>	B	B

・国際理解・外国語教育の推進

国際化の急速な発展に伴い、広い視野を持ち、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが求められています。学校においては小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、コミュニケーションの手段としての外国語(英語)に慣れ親しませ、小・中学校の学びの連続性を踏まえた英語によるコミュニケーション能力の育成を一層充実させ、これからの社会で羽ばたけるよう育成を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
25	国際理解・外国語教育の推進	1名のALT（外国人英語指導助手）が、町内の全小中学校で、学級担任・教科担任の助手として、英語学習の指導を行う。	<p>○小学校におけるJTE（日本人英語指導員）が2名体制になり、ALTは中学校のみでの配置となった。今年度も同じALTが継続して配置されているため、生徒も慣れ親しみ、生徒と英語で会話する場面も見られている。</p> <p>○今年度は海外ホームステイの派遣が中止になり、面接実施や派遣前の英会話研修等ができなかった。</p> <p>☆本町における当初のALT導入目的である、外国を身近に感じ、英語や海外に興味を持つ機会とすることはほぼ達成されたと考える。また同目的は、小学校におけるJTEの2名配置により、より早い時期からの取組が実践できている。中学校においては、書くこと、読むことの課題解決等、英語学習の充実を図る新たな手立てを検討していくこととし、現在のALTの契約期間をもち、ALT配置事業を終了することとする。</p>	A	A
26		小学校の英語学習の助手として、2名のJTE（日本人英語指導助手）が、6小学校の3年生以上の学年で英語指導を行う。	<p>○今年度も2名のJTE（日本人英語指導員）を小学校に配置できたため、小学校3年4年では担任とTTでの授業、小学校5年6年では英語専科とTTで授業を行っている。授業だけでなく、教材・教具づくりや年間計画の作成補助も担任と連携して行っている。</p> <p>○2名配置されたことで担任との打ち合わせを確保することができ、英語の授業が充実している。</p> <p>○小学校の新学習指導要領の全面実施年であったが、JTE2名の配置により、教諭の負担軽減及び指導力向上の成果にも繋がっている。</p> <p>☆小中の英語教育の充実のために、小中の連携を密にして、授業を気軽に見合える仕組み作りをしていく。また、中学校と連携を図り、授業改善について検討していく。</p>	A	A

・情報教育の充実

高度情報通信ネットワーク社会においては、児童生徒がコンピュータやインターネットを活用し情報化社会に主体的に対応できる「情報活用能力」の育成と情報モラルに関する指導の充実が求められています。

このため、学校においては校務の情報化を積極的に推進するとともに、ICTの活用や情報モラル指導のための校内研修を充実し、児童生徒に情報を適切に活用する基礎的な能力等を系統的に育成するため、情報教育の一層の改善・充実を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
27	小・中学校の情報教育	情報活用能力を育成するための小中学校の情報機器の整備。	○文部科学省の「公立学校情報通信ネットワーク環境施設整備費補助金」を活用し、小中学校の普通教室にWi-Fiネットワークを整備することができた。 ●児童・生徒用の「1人1台端末」の整備が年度内に完了せず、GIGAスクール構想への取り組みが遅れてしまった。 ☆端末の整備を速やかに行うとともに、端末利用に関する教員向けの研修を行い、積極的な活用に向けて支援を行う。 ☆導入された端末を快適に利用できるよう、通信環境改善のための整備を行う。	C	C

3. 国際社会・情報社会等への対応

国際化・情報化の時代に対応する先見性と国際性に富んだ人材の育成を図るため、広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図る教育を推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
28	国際社会に対応した教育の推進	国際化・高度情報化時代に対応できることを目的に、町内の英検3級以上の中学生から募集し、選考された3名をアメリカにホームステイさせる。	○新型コロナ感染拡大防止のため中止となった。 ●今後の感染症等の状況も含め、代替え事業として国内ホームステイ等について検討する。	—	—

4. 青少年の健全育成

豊かな心と健全でたくましい青少年を育成するため、学校、家庭、地域社会がその教育機能を発揮し、生活体験・自然体験の機会を多く持つとともに、ボランティア活動の活性化に務めます。また、地域社会が「地域の子どもは、地域で育てる」意識を高め、子どもの教育に多くの大人が関わり、地域の教育力の活性化・高揚を図る諸施策を推進します。そして、豊かな感性を育み、文化活動への参加の気運を高めるために地域の芸能・文化活動等の促進を図っていきます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
29	児童・生徒交流	<小学校・なかさと交流> 1月に新潟県十日町市に5年生12名を派遣、翌年度6月には6年生を本町において受け入れ交流を図る。	●新型コロナ感染症拡大の影響を受け、6月の受入がR3年度に延期、1月の訪問が中止となった。 ☆6月受入予定の12名は、R3年度に受け入れる。 ☆十日町市（中里地区）の小学校統廃合により人数を8名に減らし、6学年時のみで交流を実施する。	—	—
30		<中学校・佐賀市交流> 12月に佐賀市へ中学1年生を16名派遣、8月に佐賀市からの中学生を受け入れ交流を図る。	●新型コロナ感染症拡大の影響を受け中止となった。オンライン等を活用した実施について検討する。 ☆R3年度は対象学年を2年生までに広げてスタートする。	—	—
31	夏休み ものづくり教室	夏休みに、昔ながらのおもちゃ、最近の手作りの道具等、バラエティーにとんだものづくりに親子で参加している。	○身近で手に入りやすい素材を利用し家庭で誰でも簡単にできるものづくりを楽しむことができた。（ジェルキャンドル、小物作り、フォトフレーム、ビーズ教室） ○参加費を無料とし、また各ブースで時間を設定、受付を行い参加者が計画的に参加できた。 ●材料等、準備、実施計画の時間配分等に工夫が必要。	A	A
32	ヤングフェスティバル	子ども達が各教室等で学習してきた成果を披露する発表会。 *唄・三線、舞踊、ピアノ、空手伝統芸能等	●新型コロナ感染拡大防止のため中止となった。今後は、コロナ禍でのイベント開催方法について検討する必要がある。 ☆ネット配信の可能性も踏まえ各団体代表者と検討していく。 ☆中・高校生に主体性を持たせ、企画・運営できるような仕組み作りを検討する。	—	—

33	久米島現代版組踊り	地域の希望・宝である子ども達（小・中・高校生）が、生まれ育った地域の文化・歴史に誇りを持ち、郷土の歴史を題材にしたストーリーを現代版組踊りとして舞台発表を行っている。	○新型コロナウイルス感染症の影響により公演は中止とした。 ○練習の成果発表の場を設け、WEBにて動画配（YouTube）を行った。配信期間（35日間）再生回数4024 ●自主運営に向けて計画の見直しの必要がある。	B	A
----	-----------	---	--	---	---

5. 社会教育の充実

町民の社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、施設の整備や社会教育指導者、体育指導員の養成・活動を充実させ、多様な学習機会の提供を図ります。また、家庭教育や地域活動を支援し、各関連機関との連携に務め地域の教育力の向上に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
34	久米島新春書道展	文字文化を通して忍耐強さ、素直に学ぶ心の育成及び町内の書道の普及を目標に実施している。	○児童・生徒の部471点（小学生297点、中学生174点）、一般の部16点（高校生含む）計487点が出品。 ○審査委員長より「前年度よりも児童・生徒の部、一般の部ともに作品のレベルが上がっており久米島町の書道の発展に期待したい」と総評。	A	A
35	久米島町子ども読書まつり	本の楽しさ・読み聞かせの楽しさを保護者に伝え家庭で読書の環境づくりができることを目的として、改善センターにて開催している。	○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和2年度は実施しないこととした。 ●他の図書館のイベントの持ち方・感染対策等を参考に実施できる方法がないかを検討する。	—	—
36	放課後子ども教室	スポーツ・文化・読書・体験活動等により放課後の子ども達の安全・安心な居場所の確保と学習環境作りを目的として開催している。	○新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休校のため、休止期間(4-5月)もあったが概ね予定どおり活動ができた。 【5小学校で11教室(学習支援4、スポーツ活動7)】 ●スポーツ教室の活動(休日の設定・活動時間等)について周知徹底するため整理していく必要がある。	B	B

6. 文化の継承・発展

町民が等しく郷土の文化にふれ、文化財に対する理解を深めるとともに、豊かな文化生活の形成に資するために、文化財の保存・活用及び芸術文化の振興を図ります。このため、町の史跡等の復元整備をはじめ、国・県・町指定文化材の環境整備を推進するとともに、建造物、美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物等の調査、また無形文化財、民俗文化財の継承者養成に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
37	収蔵資料の管理・活用	収蔵資料の適正管理・公開活用を図るため、資料管理のデータ化を行う。	○照明、空調の省エネ化を完了した後大幅に電気使用量、電気料金ともに大幅に低減しつつ、展示室、収蔵庫ともに保存環境を向上が図れている。 ●省エネ化は実証事業であることから、実績データの提供を行っているが、季節に応じた設定値を実績値から見出し、マニュアル化する必要がある。 ●資料データ化は、町史事業、図書館業務対応を優先したため、時間確保できない状況であった。今後、時間確保に努め業務を進める必要がある。	B	B
38	宇江城城跡保存修理・整備事業	崩落した一の郭石積みの修復を目的とする。	○崩落面半分の養生工事を完了、残り半分は令和3年度に実施する。 ○解体・積み直しに向けて、令和3年度は崩落石材の集積や土質調査を実施する。	A	A
39	具志川城跡保存修理・整備事業	具志川城跡の適正な保存・活用を図るため、調査を実施し城跡を修復する。	○平成30年度に崩落した石積みを解体した。 ○ボーリング調査を実施、地拵の下に石灰岩が存在しないことを確認。工法の検討にむけて、採取したコアを分析中。 ●崩落面の対策工法の決定が整備委員会で工法の決定に時間を要している。	C	C
40	上江洲家住宅防災設備設置	故障した消防用ポンプの取替と乾式スプリンクラーを新設する。	○当初の予定通り、消防用ポンプ取替工事、乾式スプリンクラー新設工事を完了した。	A	A
41	町史編集	地域文化を育み、郷土に対する関心と愛着をより深めるため、歴史と文化を科学的に解明する町史編集を行う。	○編集委員会を予定通り2回開催。資料編1の編集部会を月に2~3回、事務局会議を週1~2回開催し、資料編1の構成内容を決定し編集作業を進めた。 ○資料編1掲載予定の新聞資料、写真資料等の利用について、関係各社と調整を行い、掲載許可確認を実施した。 ○令和3年3月30日に「久米島町史資料編1久米島の戦争記録」を刊行した。	A	A

			○令和3年度刊行予定の「久米島町史別巻合併20年のあゆみ」について、資料収集、関係課との調整等を行った。 ●「合併20年のあゆみ」の令和3年度刊行を目指し、関係資料の収集、町民目線に立った編集・校正業務等、細心の注意を払いつつ業務を進める必要がある。		
42	文化財管理	数多くある指定文化財の適正管理により、学習や観光への活用を図る。	○久米の五枝のマツを保護する防風林育成を継続している。 ○石垣に取り付いた樹木の除根、樹木の剪定を行い、保護と美観維持に努めた。 ○久米の五枝のマツはじめとする文化財指定樹木について、樹木医による樹勢診断を実施した。 ○上江洲家住宅及び天后宮の屋根瓦修理を行った。	B	B

7. 教育行政の充実

新しい時代を展望した教育実現のため、社会の変化に柔軟に対応した教育行政を運営する。また、教育委員会がその機能を十分に発揮できるよう、各関係機関との連携を強化し、教育行政の効率的効果的運営に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
43	校舎施設等修繕 (学校施設の耐震化)	美崎小学校2棟、清水小学校3棟、仲里小学校2棟、久米島小学校2棟の旧耐震施設について、耐震診断調査を行い、調査結果に基づき耐震化を推進する。	○清水小学校、仲里小学校、久米島小学校の耐震診断調査が完了した。R1に耐震診断調査を完了した美崎小学校と清水小学校については、耐震診断調査に係る判定委員会を行った。 ●判定委員会を行った、美崎小学校2棟、清水小学校3棟全てにおいて基準値に満たないと判定されたため、耐震補強工事が必要となる。 また、仲里小学校2棟、久米島小学校2棟については、判定委員会に図ることが出来ていないが、仲里小学校2棟、久米島小学校1棟は基準値以下の調査結果となっている。そのため、早急に判定委員会の実施を行う必要がある。 ※久米島小学校1棟は基準値を上回る調査結果となっている。 ☆美崎小学校についてはR3に耐震化事業の実施を計画しているため、早	C	C

			<p>急な補強計画の策定が必要となる。</p> <p>また、仲里小学校、久米島小学校の判定委員会を実施し判定結果に伴った対応が必要となる。その中で、久米島小学校1棟については、判定委員会が完了することにより耐震化が完了となることからR3で判定委員会を実施することが望ましい。</p>		
--	--	--	---	--	--

8. スポーツの振興

生涯スポーツ、健康体力の基礎となる学校体育の充実、生涯スポーツ社会の実現をめざすため、施設・設備の充実を図り、スポーツの普及振興、健康保持・増進に務めます。また、生涯にわたり健康で心豊かな生活を営むためには、自発的・自主的な運動の日常化や健康生活を実践できる能力の育成が重要であり、地域社会及び関係団体との連携を密にし、支援体制の充実・強化を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
44	町民運動会	町民の親睦と体力増進を目的とし全町民を対象に運動会を実施する。	<p>○新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。</p> <p>●感染症等の状況も含め、開催方法について検討する。</p>	—	—
45	学校施設の開放 (体育館)	町民の生涯スポーツ活動の推進と健康増進を図ることを目的に、夜間に学校施設を開放する。	<p>○学校体育施設2校(各中学校)を解放し、10団体が利用しスポーツを通しての健康増進を図っている。</p> <p>●球美中学校利用が2団体と少なく、町民の健康増進への意識を高める取り組みを推進する。</p>	B	A
46	B&G 海洋センタープールの開放	B&G プールを開放して、町民の健康づくり、子どもの水のふれあい及び学校授業で活用している。	<p>○イベントとしてカヤック体験会を実施約20名参加した。</p> <p>●子どもの利用が少ないので親子で参加できるようなイベント開催が必要。</p>	B	B
47	夏休み水泳教室	夏季休業期間中に、泳力の向上を図ることを目的に、B&G プールを活用し、水泳教室を開催する。	<p>○新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。</p> <p>●今後の感染症等の状況も含め、実施できるような開催方法について検討する必要がある。</p>	—	—

久米島町教育委員会委員名簿

* 令和3年3月31日現在

職 名	氏 名	任 期
教育長	吉野 剛	平成30年7月10日～令和3年7月9日
委員（教育長職務代理者）	高江洲 眞知子	平成29年7月10日～令和3年7月9日
委員	山城 晶	令和元年7月10日～令和5年7月9日
委員	儀間 啓子	令和2年7月10日～令和6年7月9日

教育委員会の活動状況について

（ 1 ） 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月10日を基本に定例会を開いています。令和2年度は14回(総合教育会議、臨時会を含む)開催しました。

（ 2 ） 教育委員会会議以外の活動状況

○ 研修会（3回）

沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会（書面決議・WEB研修）

那覇地区市町村教育委員会協議会定例総会（書面開催）・研修会（中止）

沖縄県市町村教育委員会・研修会（WEB研修）

○ その他活動状況（各種行事等への出席）

月	行 事 名
R2.5月	各小学校入学式・各中学校入学式・久米島高校入学式
R3.1月	町成人式、久米島町新春書道展
R3.3月	各小中学校卒業式・久米島高校卒業式

《外部評価委員の意見》

- 点検・評価について、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった事業が多数あると思います。評価方法について、新型コロナウイルス感染症の影響で未実施の事業については達成度の項目を追加して評価出来るように検討してほしい。
- 幼稚園教育については、成果は達成出来ていると思う。幼稚園における先生方の指導の充実により、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るように努めていただきたいと思います。
- 学習指導の工夫・改善・充実について、学力調査での学校・学年・教科の差について課題を授業改善へ生かすように取り組みを進めてほしい。
- 学習支援員配置により児童生徒に対し細やかな支援が出来ているのでしっかり評価してほしい。A評価が妥当だと考える。
- 検定支援について、英検に関してはハイレベルの受験者の増加等、学力向上推進の一環として効果的だと評価する。継続的に支援を続けていってほしい。
- 道徳教育の充実については、あらゆる機会を通して啓発していただきたい。また、学校・家庭・地域等、幅広い取り組みが出来るように検討してほしい。
- 健やかな心と体を育む教育の充実について、幼児児童生徒健康診断において平均値のみを比較してのA評価は妥当ではない。評価指標を設けてわかりやすく評価出来るように検討してほしい。B評価が妥当だと考える。
- 生徒指導の充実のスクールカウンセラー等の配置について、児童生徒・保護者に対して相談機会を提供支援ができていますので継続的に取り組んでほしい。
- 特別活動の充実の島外派遣費補助について、子どもたちのよい経験になっているので評価している。しかし、今般の社会情勢の中で実施できていることについて、周りのサポート等がある行っていることを子どもたちにしっかり理解させてほしい。
- 特別支援教育の充実について、特別支援教育支援員の配置が図られている。支援員の資質向上にも取り組まれている。今後も継続していくために福祉課等関係機関と連携しながら支援できるように取り組んでほしい。
- 学校給食の充実については、施設の老朽化が進んでおり給食への影響が懸念されるので早急に進めて行けるよう取り組んでほしい。
- 国際理解・外国語教育の推進について、ALTの派遣終了後に新たな取り組みとして今後の英語学習の充実のための手立てをしっかりと検討してほしい
- 情報教育の充実について、児童・生徒用の「1人1台端末」整備の遅れについて、早急に対応してほしい。また、導入されたら家庭等の教育環境でも活用できるように検討してほしい。
- 青少年の健全育成の久米島現代版組踊りについては、子どもたちの取り組み姿勢を見ていると成果は十分にでている。もっと評価してもいいと思う。
- 社会教育の充実の放課後子ども教室について、多くの実施委員（監督）サポーター（コーチ）のもと円滑に実施でき、子どもたちが様々なことに熱心に一生懸命取り組んでいる。今後も充実させていってほしい。
- 文化の継承・発展について、町の観光資源の一つでもあるので、修理・復元・整備に向けて早めに取り組んでほしい。
- 教育行政の充実の校舎施設等修繕については、学校の耐震化は子供の安全に関わってくるので優先的に進めもらいたい。
- スポーツの振興について、学校施設の開放は目的としては達成できているのでA評価でいいのではないかと。また、B&G海洋センタープールについては毎年のオープン時期を固定して出来るように取り組みを進めてほしい。